

教材・教具名

【ミニチュア】

領域・教科

【あそびの学習】



あそびの学習の場面をミニチュアやペーパーサートで作成する。児童が見立てやすいようにできるだけ実物に合わせたものを作成する。

◇ 指導方法

①学習の場面にミニチュアを持ち込み具体物と結びつけ、イメージを持たせる。

②学習の終わりに振り返りの場面を設定し、「どんなことをしたのか」「何が楽しかったか」等を具体物やペーパーサートを選んだり、動かしたり、物を手がかりにしたりして表現する。始めは、友達がやっている様子を見せたり、教師が一緒にやって見せたりしてあそび方を教える。

③ 児童が操作することで表したことや思いを教師が丁寧にひろい、ことばに置き換える。その際、児童個々の表現手段を考慮し、ことばの補助や代替手段としてマカトンサインや身振りを使用する。

④学習後は教室や廊下に常時設置し、児童が好きな時に自由に手に取って遊べるようする

◇ 指導のねらい

- ・あそびの学習の中で経験したことや自分の思いををミニチュアを操作して表現する。
- ・ミニチュアを操作し表現したことを、ことばやサイン動作に置き換え言語の拡充を図る。

◇ 指導の評価

本校では、ミニチュアやペーパーサートを使い、経験を意識化したり、表したりする機会を多く持つようにしている。実際に活動した場にミニチュアを持ち込むことで活動と結びつく。「これをやったね」と振り返ることで自分のやったことを意識することができた。

また、音声言語を持たないため自分の思いをうまく表現できない児童には特に有効である。物を操作することで、自分の経験したことを「何をしてあそんだよ」「何はこうやってやるよ」と教師に代弁してもらうのではなく自分で表現し、相手に伝えることができるミニチュアという代替手段を持つことで、自分から手を挙げ自信を持って発表する姿が見られるようになった。

ミニチュアやペーパーサートを動かすとき、教師が丁寧にことばを添えたり、サインに置き換え模倣を促すことで、場にあった表現の仕方を覚えるなど、ことばの広がりが見られた。

休み時間には廊下に設置したミニチュアを操作して活動を再現したり、友だちと一緒に動かして楽しむなどあそびが、生活へ広がっていく様子も見られた。